

第82回東伏見スポーツサイエンス研究会

日時 2023年9月28日(木) **15:00~18:00**

場所 早稲田大学79号館(STEP22)204教室

演題

スポーツ史の通史について:

Allen Guttman, *Sports—The First Five Millennia* (2004)を手がかりとして

石井 昌幸(早稲田大学スポーツ科学学術院)

■21世紀に入って、英語圏では、現代までを俯瞰したスポーツ史の通史や、スポーツ史事典が複数出版されている。本発表では、そのなかでも最も早く出たものの1つ、Allen Guttman, *Sports—The First Five Millennia*, University of Massachusetts Press(2004)をテキストとして、「スポーツ史の通史とは何か?」について考える。具体的には、まず以下の3点を中心に、同書について論評していく。

- ① グットマンの提起した「理念型」としての「近代スポーツ」(7つの特徴)が、実体として歴史に登場するのは、いつ頃、なぜ、どのような形でなのか。このことについて、グットマンは本書でどう説明しているか?
- ② 序章の最後でグットマンは、「歴史家のゲームを始める時がきた」と述べているが、本書は「歴史家のゲーム」と言えるか?
- ③ グットマンの「7つの特徴」は、マックス・ヴェーバーの応用として妥当か? これらの検討を通じて、
- ④ 「スポーツ史」とは、何を問う分野なのか(スポーツ史の「学問固有の主題」とは何か)? という問題に接近したいと考える。

■ プロフィール: 1963年生まれ。早稲田大学スポーツ科学学術院教授。専門は、スポーツ史・国際スポーツ文化論。

<論文>「スポーツ史の通史について: Tony Collins, *Sport in Capitalist Society* (2013)を手がかりとして」、スポーツ文化研究会編、『スポーツ文化研究』(2023, No.1.)、44~82頁。

<共著>坂上康博(他編著)、『スポーツの世界史』、一色出版、2018年。

<共訳>ニコ・ベズニエ(他)、川島浩平(他訳)、『スポーツ人類学: グローバリゼーションと身体』、共和国、2020年、など。

